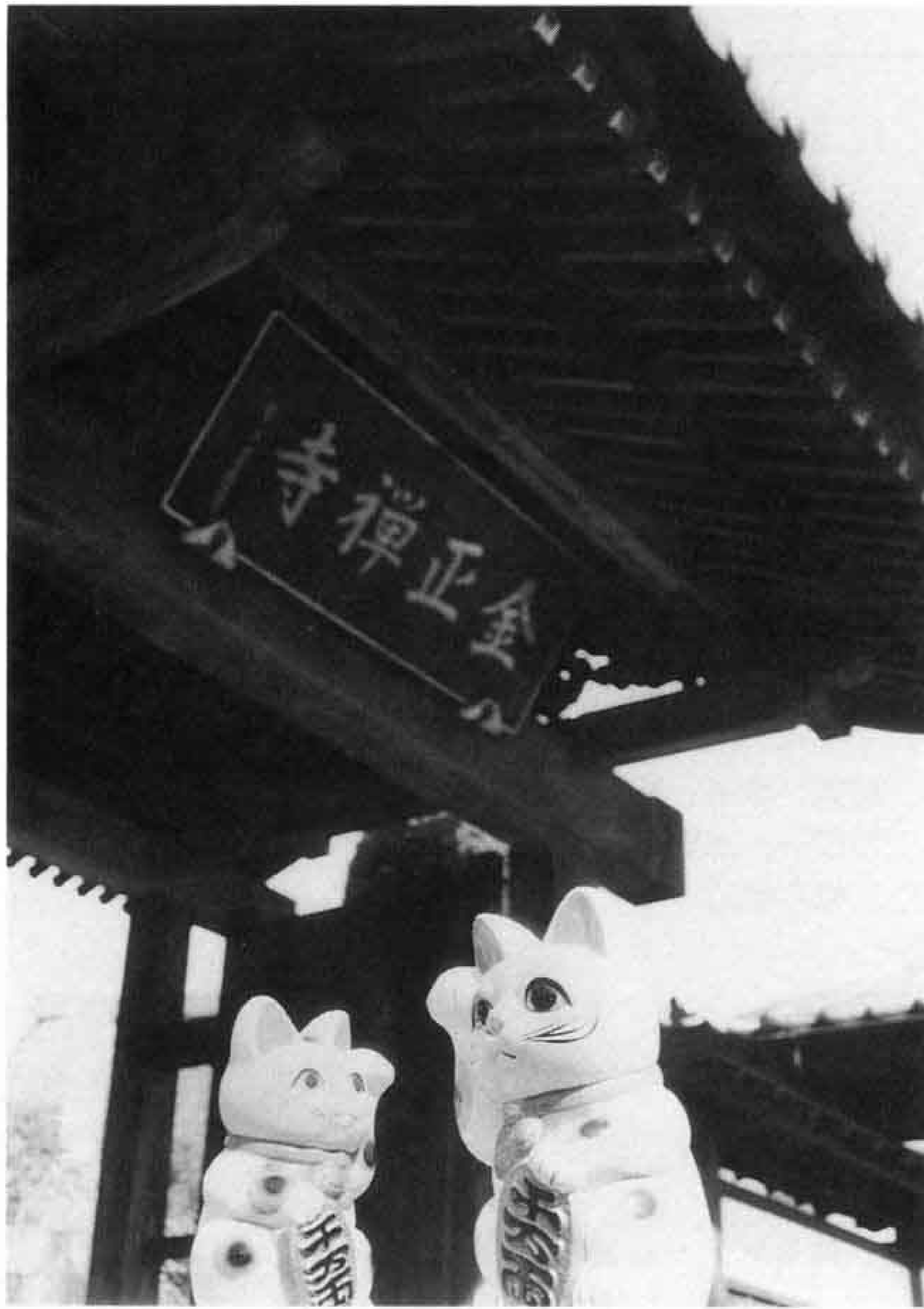


富士の民話  
あれこれ

# 金正寺の猫

いつごろのことか、はっきりとは、わかっていませんが、平垣にある金正寺に飼われていた猫が、近郷の猫を集めて、夜な夜な踊りの集会を開いたというお話が伝えられています。  
今回は、金正寺の住職である加藤義忠さんから、お話を伺いました。



平垣の金正寺という古い寺に、年をとった大きな三毛猫がいました。片宿の百姓のおじいさんは、その猫がボスになり、毎晩、中島村の茅積場で近郷の猫が集まって踊っているのをはつきり見たそうです。

ある晩おじいさんは、ふる場の手ぬぐいに泥がついていて、かける場所も違っていていることに気づきました。そこで、おじいさんは寝床へもぐって眠ったふりをしてしていると、真夜中になって飼いの猫のタマが、手ぬぐいを口にくわえて出かけるではありませんか。おじいさんは、不思議に思ってたマの跡をそっとつけてみました。そうとは知らないタマは、片宿の家から畑を抜け、田んぼを通って中島村の茅積場まで来ました。何と、そこには何十匹という猫が集まって、手ぬぐいを頭にかぶり、後ろ足で立って愉快そうに踊っていました。

すると、突然猫たちが一斉に踊りをやめて、一匹の大きな猫を迎えました。手ぬぐいをいなせに結って、ゆうゆうとやって来たのは、金正寺の猫だったのです。

それから夜明けまで猫たちは楽しく踊ったということです。  
※茅積場・昔は農閑期の田畑にカヤを積んでいました。

この話の続きで、  
「ある晩のこと、金正寺の猫は踊りの集会へ来るのが遅くなってしまいました。一匹の猫が理由を尋ねたら、『晩飯のおかゆが熱かったからだ』と答えました」という話もあります。  
猫は「猫舌」だから、熱いおかゆを食べるのに時間がかかったんでしょうね。  
現在、金正寺では猫を飼っていませんが、たまに近所の猫が、夜になると境内に集まっているようですよ。



加藤義忠さん(平垣)

こちら編集室

ある秋の日、まちかどネットワーク（広報ふじの情報通信員）の楠さん主催の「サンマ七輪パーティー」に招待された。

何しろ編集室ナンバーワンの大食漢の私。食べることにするお誘いを断るすべを知らない。家族連れでお邪魔することにした。

ガレージに近所の人たちが集まり、七輪の煙にまみれてワイワイガヤガヤ。香ばしく焼けたサンマの味は格別だったが、何より近所の人たちが、僕らを温かく迎えてくれたことがうれしかった。

コミュニティってけっこう単純なところにあるんだよね。(ヤイツァ)

人口 233,322人  
男 116,301人 女 117,021人  
世帯 73,693世帯 (10月1日現在)  
発行・編集 富士市総務部広報広聴課  
富士市永田町1-100 ☎51-0123

